

バトジャルガル アリウトウンガラグ (モンゴル)

私の名前はアリウトウンガラグ・バトジャルガルです。モンゴルから来ました。私は 2003 年にモンゴル国立大学を卒業し、モンゴル国立国防大学で修士号を取得しました。現在、モンゴル国立国防大学で博士号取得のために勉強しています。私は、モンゴル国家危機管理庁 (NEMA) 傘下の国立災害研究所 (NIDR) で、化学研究員として勤務しています。



NIDR の主な目標は、災害科学を発展させ、災害保護の分野における研究、分析、技術、イノベーションを導入することで、モンゴルの持続的発展に影響する災害リスクの低減に貢献することです。そのため、災害リスク軽減や防災法の施行とその課題などを研究しています。研究結果に基づき、今後取るべき対策を科学的に判断し、地域社会に向けて発表しています。

また、災害による被害の軽減を目的とした新技術を生み出す分野でも、共同研究や自主研究を行っています。さらに、私は市民や大学生に防災や災害リスク軽減について教えています。

モンゴルについて簡単にご紹介しましょう。中央アジアに位置するモンゴルは、北方にロシア連邦、南方に中国と国境を接する内陸国です。私の住むモンゴルは、広大な平原に 5 種類の家畜を放牧する遊牧文明を維持する伝統を持つ国です。モンゴルの人口は 3,409,939 人で、世界で最も平均人口密度が低い国です。1 平方キロメートルあたり 2 人強 (1 平方マイルあたり約 5 人) となっています。モンゴルの人口は 66% が定住し、34% が遊牧民です。

モンゴルの主な災害は、雪害 (dzud)、洪水、雪と砂嵐、森林・草原火災、動物の病気、地震です。家畜はモンゴル人の生活、社会、経済において非常に重要な役割を担っており、モンゴルでよく見られる災害は家畜に大きな被害を与えています。また、近年、全国的に人口の多いウランバートルで新たな地震断層が登録され、大きな不安を感じており、この分野での研究の充実が必要となっています。

モンゴルと日本は古くから友好関係にありました。ですから、日本は私にとってとても親しみのある国です。ADRC の客員研究員プログラムに参加できたことを大変嬉しく思います。ここで学び、身につけた知識を研究に活かしていきたいと思えます。